

基本聖句 喜ぶ人と共に喜び、  
泣く人と共に泣きなさい  
(ローマの信徒への手紙第12章15節)

### 熊本YMCAの使命

共に生きる社会 地球環境の保全 生涯学習の推進  
ウエルネス活動 ボランティア活動 平和な世界

- ホームページ [www.kumamoto-ymca.or.jp](http://www.kumamoto-ymca.or.jp)
- ブログ [kumamoto-ymca.wablog.com](http://kumamoto-ymca.wablog.com)
- メールマガジン登録 [www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi](http://www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi)



●発行所/ (財) 熊本YMCA / 〒860-8739 熊本市新町1-3-8 TEL096-353-6397代  
●編集人/ 堤 雄二 ●発行人/ 堤 弘雄 2010年11月1日発行 (毎月1日発行)  
1984年8月15日第3種郵便物認可 定価60円 (送料60円)

## CONTENTS

- 1・2 YMCAフィランソロピー協会15周年
- 2 歌声広場わいわい通算100回開催
- 2・3 event report  
日韓医師蹴球親善試合/職員韓国研修/  
全国YMCAリーダー研修会/体育英語幼児園運動会  
こどもえいごキャンプ/県シルバー人材センター連合会受託事業  
アガベNo.56「対話のある社会へ」
- 4 Life 第32回  
箱崎自由学舎 ESPERANZA 小田哲也さん①  
YMCA NETWORK (地域YMCA情報)  
YMCA学院/みなみYMCA/YMCA学院高等学校

# 企業と人の社会貢献

## YMCAフィランソロピー協会15周年

### ■フィランソロピー協会の誕生



「チャリティブチ駅伝大会」は企業ボランティア有志が集まる実行委員会によって運営され、毎年約200名が参加。今年11月には15周年記念大会が開催

YMCAフィランソロピー協会は、1995年に設立されました。当初、熊本YMCAが行う国際交流活動や障がい児キャンプなどを財政的に援助する、いわゆる「賛助会」の設立が計画されていました。熊本YMCAでは、情報の収集や企業との面談を重ね、1994年7月、第1回企業懇談会を開催。その後も企業やボランティア団体との懇談会が開かれ、1995年10月にフィランソロピー協会の設立を迎えました。

### ■全国的にも珍しい協会の存在

数々の懇談会や情報収集の中でわかってきたのは、企業がボランティア活動へ参加する機会を望んでいるということでした。当時の企業では、ボランティア活動に対し潜在的な要望がある一方で、窓口もノウハウもない。そこで、企業へボランティア情報を提供し、企業とボランティア団体を結び役割をYMCAが担うことになったのです。結果として、賛助会から方向転換し、YMCAの名を冠したフィランソロピー協会が誕生しました。以来、YMCA(協会事務局)から企業に対し、ボランティアにまつわる様々な情報が伝えられ、企業で働く人々がそれぞれの意思に基づいてボランティア活動に参加するというスタイルが確立しました。YMCAは、企業の社会貢献活動を推進していく上でのパートナーであり、コーディネーターとして存在しています。

フィランソロピー(philanthropy)とは、ギリシア語の「人間愛」という言葉に由来し、人間愛にあふれる社会を目指す、企業の社会貢献活動を表す言葉として用いられています。現代社会は、少子高齢化の進展や失業率の悪化、地球環境の破壊など多くの課題に直面しています。YMCAフィランソロピー協会では、ボランティア情報の発信、チャリティイベントやセミナーの開催を通して、こうした様々な問題

### わたしと聖句

使徒言行録第20章24節

「しかし、自分の決められた道を走りとおし、また、主イエスからいただいた、神の恵みの福音を力強く証しするという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して惜しいとは思いません。」

### 「生きる」ことを始める

キリスト教というのは、むしろキリスト道といったほうがいいかもしれ

ません。ただ教えであるだけでなく、いかに生きるかということが問題だからです。キリストにならって、キリストと共に、キリストに従って、キリストのために歩む。そういうキリストの道を生きるということが、キリストを信じるということなんです。パウロという人は、そういうキリスト道を買いた人の一つのモデルです。彼は、キリストを知ることのあまりのすばらしさゆえに、その他の一切のことを塵芥のように思うとさえ言いました。キリストを信じて従う人生は、それほど素晴らしい。この命すら惜

しくないほどに。このパウロは無類のキリストバカですから、なかなか真似できるものではありません。でも彼の突き抜けた喜びの姿は、まぶしいです。「命すら惜しくない」と言い切れるほどの、大切なものを手に入れた人の輝きです。命以上に大切なものを知ること、私たちは初めて命の輝きを得るのです。「生きる」ということを本当の意味で始めることができるのです。イエス・キリストと出会う時に…。

日本キリスト改革派熊本教会  
坂井 孝宏

と向き合ってきました。

企業には利益を追求するだけでなく、環境への配慮、地域社会への貢献などが求められており、現在はCSR(企業の社会的責任)Corporate Social Responsibilityという言葉で表現されています。清掃・植樹活動やイベント協賛、NPO支援など形態は様々ですが、社会貢献は企業にとっても、はや必須の条件となりつつあります。

フィランソロピー協会の特異性は、同じ目的のため業種の垣根を超えて活動するという点にあります。チャリティポウリング大会やチャリティ駅伝大会など独自の社会貢献活動が、企業人の手によって企画・運営され、各種イベントには物品の寄付のみならず、現場で働く多くの社員・職員の人的協力が寄せられています。一社単



設立以来、NPOとの協働で実施されてきた「新入社員ボランティア入門講座」。新社会人たちが食事介助と車いす講習を通し、相手の立場に立つこと、相手を思いやる気持ちなどを学ぶ。写真は第1回の様子

### ■社会のため、地域と共に

独では生み出せない、ダイナミズムやコミュニケーションが広がっています。また、協会活動においては、立場や肩書きに関係なく「さん」付けで呼び合われていることも、企業社会ではユニークなポイントでしょう。

協会の働きが波及し、2008年に岡山YMCAフィランソロピー協会、2009年に鹿児島YMCA法人賛助会が誕生しています。

経済情勢の急激な悪化と停滞により、企業や協会を取り巻く状況は、楽観視できるものではありません。フィランソロピー(社会貢献)活動は、その成果が見えにくいため、活動の意義が見出せず、受け入れられにくい現状があります。しかしながら、環境問題をはじめとする地球規模の課題はどれも待ったなしの問題ばかりです。企業も社会を構成する一員として、地域の発展に寄与しなくてはなりません。その取り組みが、ひいては企業イメージを高め、企業価値の向上にもつながります。社会貢献に取り組む企業は社員の誇り。ボランティア活動を通じて得られた情報や人との出会いによって、社員がいまよりも輝き、新しい風が企業に吹き込まれます。YMCAフィランソロピー協会は、企業やNPO、世界のYMCAとのネットワークを活用しながら、人間愛あふれる社会実現へ向かってこれからも取り組んでいきます。